山は夢とロマンと学びの世界

そして21世紀は

新たな出会いから

事　業

❖本会は山岳文化に関する調査、研究、保護、保存と振興および普及を目的として 2003 年 3 月に創立され、下記の事業を行なっております。

(1)会員の研究促進を目的とする分科会を設置し、研究発表大会を開催。

(2)調査研究に伴う会合および講演会、講習会、視察会等の実施。

(3)会員の研究内容、業績、その他を掲載する機関誌「山岳文化」の発行と、会員相互の情報提供を主眼とした「会報」の定期発行。

(4)各種資料・文献の保存

(5)その他本会の目的を達成するために必要な事業の実施。

分 科 会

Ⅰ－山の人文

山岳宗教・民俗、アルピニズム（哲学）、登山史、山地・山名、山の文献、山の文学・芸術、富士塚・富士講

Ⅱ－山の自然

地形・地質（雪氷・氷河）、気象、動植物、自然保護

Ⅲ－登山行動と登山者

登山医学・体力科学、登山技術、装備・食料、遭難、事故と法律、観光登山、バリアフリーと登山、山岳アドベンチャー、ウッドシャフトピッケル

Ⅳ－山岳地域研究（登山記録含む）

国内、海外、ヒマラヤ登山

≪活動中の分科会…≫

【文献分科会】
膨大な山岳文献の調査研究に取り組み、後世に残る「総合日本山岳文献目録」の作成を目指しています。これまで学校部会報や社会人山岳会報、文献から見た郷土の山の研究成果を叢書に纏めました。

【芸術・文学分科会】
登山は登ることだけではなく、そこには多岐にわたる文化が共存しています。それらと関わり合う芸術や文学をテーマに山の魅力を再発見し、そのための研究会を開催しています。

【登山史分科会】
幅広い分野にわたる“登山史”について、各会員の研究テーマに基づく資料・情報の交換、共同研究会などを行い、各々の持つテーマの完成を目指します。

【ウッドシャフトピッケル研究分科会】
貴重なウッドシャフトピッケルの資料や本体をできる限り調査収集し、また、可能な限りその鍛冶屋・銘(刻印)の系譜などの調査を行っています。

【ヒマラヤ登山分科会】
２０世紀に花開いた「ヒマラヤ登山」について、国の内外を問わずに真摯に研究し、百年後の後輩たちの評価に耐えられるレベルの成果を残すべく研鑽に励んでいます。

【遭難分科会】
登山者にとって遭難は避けて通れない関心事です。現在３８名のメンバーで、遭難に関する全分野の研究を深めております。なお、これらの分科会活動は機関紙を通じてお知らせしております。

【山岳宗教・民俗分科会】
山岳の多くは聖なる山として崇められています。また、山麓の民を中心とした経済活動、憩いの場です。それらから派生する山岳宗教・民俗を研究しています。

【地理・地名分科会】
地形を中心とした自然環境と文化地理学的な人間環境の相関を、各地域について研究しています。最近は環境破壊の研究が増加しています。地名の由来も日本・外国ともに研究がさかんです。

【山岳地域研究分科会】
山国である日本では、各地の山岳を対象に地方独特の「地域研究」が行われています。現実にどこでどのような研究が行われているのか、その実態を探っています。

【登山家研究分科会】
当分科会は、『世界山岳百科事典』と『岳人辞典』に収録されていない、主に戦後に活躍された日本人登山家について、一定の基準を設けて纏め、後世に残すことを目指して活動中です。

【山岳医学医療分科会】
山岳医学については日本山岳会、日本山岳協会に委員会があり、山岳文化学会でも活動が必要です。課題は多く、独自の展開をする予定です。

【自然・環境保護分科会】
２１世紀の最大の問題は、環境と民族であると言われています。当分科会は山岳地域の自然・環境保護をテーマに、多方面からの研究を行っています。

分科会への申込みは、当会の「入会申込書」に記載された「分科会」のご希望の項目に○印をつけてお送りください。